



ルリーロ福岡は2022年4月に発足しました。チームロゴは、うきは市のシンボルである「カワセミ」の羽の色「瑠璃色（るりいろ）」をメインカラーとし、飛び立つカワセミをモチーフにデザインされています。また、「筑後川のさざ波」と「耳納連山に沈む夕日」をイメージし、地域の風景を象徴的に取り入れています。

公式マスコット
キャラクター
「リーロ」



公式マスコット
キャラクター
「ルーロ」



1.



case.1

ルリーロ福岡

LeRIRO FUKUOKA



現在進行形
のストーリー

うきは市の今



2.



3.



4.



1.生涯学習課スポーツ文化振興係が実施した、うきは市内小学校でのラグビー教室 2.警察交通安全キャンペーン1日署長 3.子ども達のラグビー体験 4.千年こどもひろば訪問

現在、70名を超える選手が在籍しています。選手の多くはうきは市に移住し、地域の企業で働きながら、地域の祭りやボランティア活動への参加など、ラグビーの枠を超えた地域での活動を通じて、うきは市とともに「まちづくり」に取り組んでいます。

また、ルリーロ福岡は、うきは市を中心に筑後地域全体の魅力を全国へ届けるため、朝倉市、大刀洗町、大川市、筑後市、広川町、久留米市、大木町、小郡市（筑後地域8市町村）と連携協定を結び、筑後地域をホームエリアとして、各地域の皆さんと一緒にまちづくりに取り組んでいます。2024年に日本ラグビー最高峰リーグであるリーグワンへ参入したルリーロ福岡には、筑後エリアをひとつにまとめ、全国に魅力を発信する存在として期待が集まっています。

地域密着型ラグビーチーム「ルリーロ福岡」は、福岡県立浮羽真館高等学校（以下、浮羽真館高校）の吉瀬晋太郎先生の主導により、ラグビー部の強化や学校の魅力向上、さらには人口減少等、地域の社会課題の解決を目指す2022年4月に誕生しました。

うきは市は、ルリーロ福岡の設立目的に共感し、より良いまちづくりに向け、「スポーツの力」を活用して地域活性化や社会課題の解決を図るため、2022年6月に、ルリーロ福岡、うきは市商工会、浮羽真館高校と4者連携協定を締結しました。

2023年4月には、さらなる連携促進と体制強化を図るため、新たに「ラグビータウンプロジェクト推進係」を発足し、市内外の小学校や保育所（園）でのこどもラグビー教室の協働開催や、選手と地域内企業との雇用マッチングを行うなど、人材育成や関係人口創出を通じて地域活性化を図る活動に取り組んでいます。

発足当初、わずか3名だったルリーロ福岡の選手は、次第にメンバーが増え、2025年